



外科系シニアレジデントコース：消化器・一般外科



○消化器・一般外科の概要

1. 消化器・一般外科の特徴

当科は、消化器系一般外科、腹部救急外科を中心とした外科診療科です。大学病院として高度先進医療を担っているばかりでなく、同時に、地域医療の中心として、日常的な外科疾患も多数扱っています。2015年の年間手術数は921例でした。「外科医は手術の術者として経験することにより、成長する」という信念のもとに、その半数の症例は指導医のもとレジデントにより執刀されており、外科医の教育修練施設としての役割を果たしています。病棟の実務は、2チームに分かれ主治医であるスタッフの指導のもとで、レジデントが行っています。レジデントは約10名前後の患者を受け持ちますが、同じチームの患者を合わせて約25名の患者と接する機会があり、数多くの症例を経験することができます。また当科は臓器別に分かれていないため日常診療で遭遇する機会が多い痔核から重症の救急疾患までさまざまな症例を経験できます。

2. 診療実績（2015年）

年間の手術件数は914例でした。

3. 診療スタッフ

診療部長：篠塚 望（教授）

診療副部長・病棟医長：浅野 博（准教授）

医局長・外来医長：大原 泰宏（助教）

スタッフ医師：深野 敬之（助教）

萩野 直己（助教）

伏島 雄輔（助教）

菅野 優貴（助教）

高木 誠（助教）

客員教授：小川 展二

4. プログラムの目的と特徴

一人前の外科医になるために大事なことは数多くの症例を経験することであり、特に外科医としての技術を磨くためには多くの手術を術者として経験することが必要です。当科は年間約900例の手術件数があります。卒後5年目までの外科医はこの豊富な手術件数のもと、年間約80例以上の術者としての経験を得る事ができます。

当科の卒後教育システムは、まず卒後2年目までの研修医は上級医師の下、臨床研修をおこないます。卒後3年目より消化器・一般外科医として本格的なトレーニングが始まり、呼吸器外科、心臓外科、小児外科等の専門医所得に必要な科をローテーションします。また、指導医の下で自分の受け持ち患者の術前術後管理を行い、またときには術者として参加します。

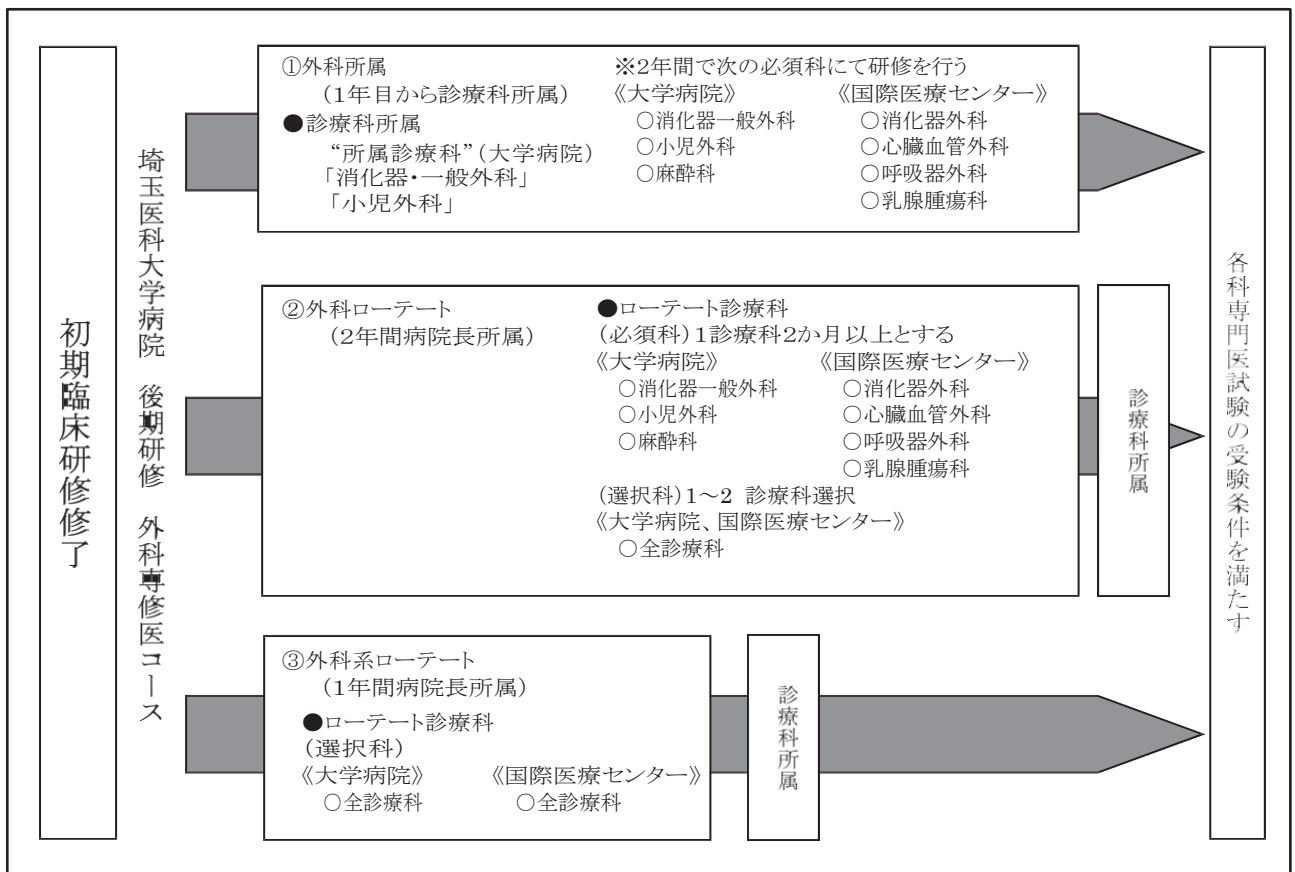
2009年より当科の専修医コースは大きく3つのプログラムに変更されました。これまでと違い初期研修の2年間に消化器外科及び他の外科を研修するプログラムが開始となりました。他の2つのコースは入局せずに1年間あるいは2年間で外科系あるいは内科系の希望する科（大学病院、国際医療センター、関連病院）をローテーションするプログラムとなっています。

なお、新専門医制度に対して、当科は埼玉医科大学国際医療センターと連携しております。2017年度は新専門医制度に伴う新プログラムは実施されませんが、既に基幹施設となる国際医療センターとのプログラムを作成しており、3年目で所属する科を決定せず同プログラムを用いた研修も可能です。

5. 取得可能な資格

- 卒後 5 年目以降：日本外科学会専門医
- 卒後 6 年目以降：日本消化器内視鏡学会専門医
- 卒後 7 年目以降：消化器外科学会専門医

6. キャリアデザイン



7. 連絡先：消化器・一般外科

担当者名：篠塚 望

TEL：049-276-1330 FAX：049-295-9232